|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **第１回　今帰仁村子ども・子育て会議** | | | | | | | |
| 日時:  場所: | 平成26年８月27日（水）９：00～11：00  今帰仁村役場　保健センター集検ホール | | | | | | |
| 出席者（敬称省略） | 参加委員 | | 重畠　泰代  名城　健二  大城　清紀  島袋　誠  仲原　雅宏  座間味　邦昭  糸洲　智子  伊波　一男  田港　朝津  島袋　るみ子  與那嶺　成江  運天　亜矢子  伊禮　正昭  玉城　イチ子  新城　敦 | | 委員長  副委員長  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員  委員 | 今帰仁村教育委員  沖縄大学准教授  今帰仁村副村長  今帰仁村幼稚園保護者代表  今帰仁村保育所保護者代表  今帰仁村学童代表  北山保育園長  今帰仁村校長会代表  今帰仁村学校教育課長  今帰仁村幼稚園代表  今帰仁村保育所長会  今帰仁村母子保健推進委員代表  今帰仁村民生委員主任児童委員  今帰仁村次世代育成支援行動計画策定委員代表  今帰仁村教育長 | |
| 事務局 | | 担当課等 | (福祉保健課長）  (福祉保健課児童母子係） | | | ：宮里　晃  ：大城　幸恵 |
| ワーキング | (㈱都市科学政策研究所） | | | ：小柴、山城、竿臺 |
| 議事概要 | | | | | | | |
| 議題 | | １．計画策定の背景・目的  ２．計画策定の体制及びスケジュール  ３．「今帰仁村の子育てをめぐる現状」及び「子ども・子育てに関するニーズ調査結果」  ４．今帰仁村後期次世代育成支援行動計画の施策点検結果の概要 | | | | | |
| **資料説明後　質疑応答**  　議題１～４について  重畠委員長：事務局からの説明について、質疑をお願いしたい。  座間味委員：何点か確認をしたい。現行制度から新制度へ移行すると、今帰仁村の保育所や幼稚園はどの程度変わるのだろうか。今帰仁村としての子育て支援の基本的な考え方を事務局案として共有して頂かなければ、形式的な議論となり、国の指針に沿った施策しか位置づけられないのではないか。  また、学童を運営している立場から「放課後児童健全育成事業」（資料ｐ11）に関してよろしいか。村内各学童の努力により、保育料の低料金化及び統一化が図られ、県内でも１、２番目位に安い保育料となっている。保護者の負担軽減に繋がっており、今後も継続的に取り組む必要がある。  子育て支援に力を入れていくのであれば、行政側としても相当な覚悟を示し、子育て支援現場や地域等と一緒になって取り組む必要があるのではないか。  重畠委員長：子ども・子育て会議の設置目的等を、今一度説明して欲しい。  担当課： これまでは「エンゼルプラン」や「次世代育成支援対策推進法」に基づき“少子化対策”等が図られてきた。平成24年度に成立した「子ども・子育て支援法」においては、“少子化対策”から“子ども・子育て支援”へと考え方の転換が示され、地域の実情に応じた総合的な子ども・子育て支援として「子ども・子育て支援新制度」が平成27年度よりスタートする予定である。今帰仁村においても、本村の子ども・子育て支援を検討するために本会議を設置しており、今年度に「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」を策定、翌年度に施行の予定となっている。  今帰仁村としての主な課題は、５歳児の二重保育ではないかと捉えている。幼稚園に入ると午後は学童を利用する場合が多く、５歳児の保育ニーズを幼稚園で受け止めている状況である。それは今帰仁村だけではなく沖縄の特殊事情として全県的な課題となっている。  座間味委員：先程、村長より地域おこしや農業振興と同様に“子ども・子育て支援”も重要施策とのご説明があった。“子ども・子育て支援”については、家庭だけでなく地域や行政が一丸となって取り組む必要がある。そもそもなぜ少子化になってはいけないのか。事務局としての基本的な考え方を教えて欲しい。  新城委員：社会保障の充実・安定化を図るために少子化対策がとられている。現在の日本の人口構造では、高齢者１人を2.6人で支えている社会構造となっている。少子高齢化が一層と進行する2060年には高齢者１人を1.2人で支える社会構造になると言われている。高齢者が増加し働き盛り人口が減少すると、国民一人ひとりの負担が大きくなるため、国は少子化対策に取り組んでいる。今帰仁村においても、若い世代が増加し、社会保障の充実・安定化が図られるよう、子ども・子育て支援等に取り組んでいきたいと考えている。  座間味委員：若年層の減少により、社会保障サービスが正常に機能しなくなり、住みにくい村になってしまうかも知れないという覚悟をもって、子ども・子育て支援に取り組む必要がある。そのためには、国の制度に則った形式的な議論ではなく、子育て現場や地域のニーズをしっかりと把握し、それを踏まえた支援策をたて、現場・地域・行政等が一丸となって取り組む必要があるのではないか。  担当課：今帰仁村の出生率をみると、現在はほぼ横ばいとなっているが、人口全体としては減少しており、子どもを産む女性の数も減少している。女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えることで、地域の人口増加に繋がると考えている。そのためには、これまで本村で取り組んできた子育て支援策を点検し、村民へのニーズ調査等を反映した計画を位置づけることで、地域の実情に応じた子ども・子育て支援に取り組んでいきたいと考えている。  大城委員：現行制度から新制度へ変わると具体的には何が変わるのか。その点を説明して頂かないと議論が出来ないのではないか。  新城委員：国が全国的な課題として待機児童の解消をあげている。今帰仁村においても数十名の待機児童がおり、潜在的な待機児童もいると思われる。待機児童を解消するために、子どもを預けられる体制づくり等の充実を図る必要があると考えている。本会議での議論を通して、本村の子育て支援策の方向性を見出していきたい。  担当課：沖縄県の待機児童解消計画においても、平成29年度までに待機児童をゼロにする目標が立てられている。  伊波委員：第１回子ども・子育て会議は、本村の子育てをめぐる現状と、ニーズ調査結果の報告が中心で、次回はこれに基づいた議論をしていくという認識でよろしいか。次回以降は議題に議論の内容を書いて頂きたい。  座間味委員：第２回子ども・子育て会議では、どのようなことを議論するのだろうか。  ワーキング：「計画策定スケジュール」（資料ｐ８）で、本会議開催の目途や議論の内容を記載している。本日の第１回目は本村の子育てをめぐる現状とニーズ調査結果の報告が中心で、第２回目以降に議論をして頂く予定となっている。  第２回目の議題は「見込量及び確保方策の検討」となっており、本村のサービス見込量とその確保方策について議論して頂く予定である。国の次年度予算等との関係で、各自治体の見込量と確保方策を９月末～10月上旬頃に国へ報告する予定となっている。そのため第２回目の議題が「見込量及び確保方策の検討」となっている。その具体的な議論例を挙げると、病児・病後児保育のニーズ量（見込量）に対して今帰仁村としてどのような確保方策をとっていくのか。一般的に病児・病後児保育は診療所や保育所での一部併設により受け入れを行うが、本村ではファミリー・サポート・センターがその役割を担っている。ニーズ調査から導き出した見込量を踏まえて今後はどのような確保方策をとっていくのか等を議論していくこととなる。  重畠委員長：他に何かご意見等はないか。  伊波委員：「子ども・子育てに関するニーズ調査結果」等は、詳細な数字の報告が多く今帰仁村としてのニーズの実態が読み取りづらかった。全体的に分かりやすい説明に努めて欲しい。  名城副委員長：ニーズ調査結果の分析は概ねこのような報告になると思われる。数字から読み取れることは沢山ある。  「通常保育事業」（資料p10）については、「新規保育所の整備を検討していく必要がある。」とある。現在（平成26年度７月現在）、待機児童が計19名と決して多くない人数の中、子どもの増加率も少なく、行政として本当に保育所を作る覚悟があるのだろうか。予算が多くあれば解決できる確保方策も沢山立てることができるが、保育所建設はハードとソフトの両面の費用が必要となってくる。要するに箱モノだけでなく人件費もかかるということである。その人件費等のソフト面の費用をどのように見ているのだろうか、教えて頂きたい。  もう一点、役場での「児童相談の状況」（報告書p20）をみると、年間の児童相談件数が１～３件程度となっておりあまりにも少なすぎる。どのような相談があるのか、その具体的な内容が知りたい。もしかすると、役場では上がっていない相談が今帰仁村子育て支援センターや保育所等に寄せられているかも知れない。村民の声を拾い上げて、施策にどう繋げていくか考えていきたい。  重畠委員長：與那嶺委員は何かご意見等はあるか。  與那嶺委員：国の制度が変わっていく中、今帰仁村としてこれまでの支援策の良い点、改善点等を委員それぞれの立場で考えることに意義があると思われる。私は保育現場にいる立場から、乳幼児期における保育、教育について語っていければと思っている。  重畠委員長：次回の会議は、委員のそれぞれの立場から思いを話せるようにして頂きたい。  伊波委員：今帰仁村として、ある程度の方向性は事務局案として持っているのだろうか。  担当課：事務局案については、「計画策定の体制」（資料p７）に記載されている様に「今帰仁村立保育所・幼稚園の今後のあり方検討委員会作業部会」にて具体的な方策を検討している。次回はその行政内部会議で出た事務局案を本会議で議論して頂きたいと考えている。例えば、今帰仁村内の保育所は施設の老朽化により建て替えを検討しているが、財政が厳しい中行政が建て替えを行うと補助金が交付されないが、民間施設に関しては補助金が交付されるという状況があり、そのような補助金を含めてどのような方策が望ましいのか検討をして頂く。  伊波委員：次回の議題である「見込量及び確保方策の検討」の具体的なイメージが見えてこない。  ワーキング：平成25年３月時点の見込量を報告書（p73～）に記載している。その後、見込量の精査を行っているので、第２回子ども・子育て会議にてご報告をしたい。その際に具体的な説明をさせて頂きたい。  もう一点、名城委員より「児童相談の状況」として村民の生の声が聞きたい、とのご意見があった。ニーズ調査結果の自由記入欄の方でも、村民の自由な意見が寄せられているので報告書（p67～）も参考にして頂ければと思う。  重畠委員長：他にご意見等はないか。次回の会議では、説明をもう少し分かりやすく短時間で行って欲しい。それでは次回日程について説明して欲しい。  　事務局からのお知らせ（次回日程について）  担当課：第２回子ども・子育て会議は９月26日（金）９時～を予定している。ご協力をよろしくお願いしたい。  重畠委員長：それでは、第１回今帰仁村子ども・子育て会議を終了したい。お疲れ様でした。  以上 | | | | | | | |